

6月自然教室だより行事報告

初夏の大和民族公園自然観察会

辻本 信一

今月は5月開催予定の歌姫街道での自然観察会が6月にずれこみ、今回6月17日に実施した大和民族公園での自然観察会とあわせ2件目の報告となりました。



【にこやかに朝の集合】

当日は猛暑を予想し9時半に開始を早めました。薄曇りのおだやかな観察日和にめぐまれ、前回に引きつづき田代先生の案内を楽しみに19名がつどいました。



【絶好の観察日和】

今回の観察会は公園内ということもあり、車の出入りがまったくなく、一団の移動もスムーズにいき、先生の説明にも安心して集中できました。

ただし、昼からの気温上昇もあり、30分ほどの昼食時間をはさみ午後2時までの観察会といたしました。その間に説明を受けた植物は30種以上にもおよび、すべての紹介はできないまでも、今回も目からウロコのお話を、紙面のゆるすかぎり以下にご紹介させていただきます。

- ・ハナミズキの葉の導管（どうかん）の一工夫
水分蒸散にともない葉の導管には負圧がかかる。その負圧にたえるようミズキ科の植物の葉の導管には掃除機のホースのようにらせん状の補強がはいる。（図・顕微鏡写真を使って説明）
花びらに見えているのは苞葉（ほうよう）先がへこんでいるのはツボミの時のなごり。
- ・セイタカアワダチソウの葉の配列
前回も説明を受けた葉の規則的なつき方の話。
フィボナッチ数列（1/2、1/3、2/5、3/8、5/13、...）のように左隣の2つの分数のそれぞれの分子・分母を足し新たな分数を作っていく数列）の法則にしたがう葉のつき方を一枚一枚の葉を数えていきながら確認。

数えてびっくり、確かに5周目の13枚目に同じ位置の葉がありました。

- ・ホタルブクロの性転換？
キキョウ科の花のツボミの時期は雄しべが花粉を出しはじめる雄の時期、開花後徐々に雌しべが柱頭を伸ばし雌の時期をむかえる。自家受粉を防ぐための自然の知恵。
いわく、雄性先熟（ゆうせいせんじゅく）。



【葉のつき方説明】 【ホタルブクロの性転換？】

- ・ユリノキの葉っぱのマトリョーシカ
葉っぱの新芽をまもる托葉（たくよう）に注目。外側の托葉をはがしていくと次々と葉の新芽と托葉が金太郎アメのごとく出てきます。まるでロシアのマトリョーシユカ。ここで、田代先生から質問。同じように玉ねぎの皮を最後までむいていくと何が出るでしょう？（答え：涙）
- ・キキョウソウ（ダندانキキョウ）の種散布
種を遠くまで運ぶのに風をたよる植物はできるだけ高いところから実を散布する工夫をする。キキョウソウではビーナスの姿見とよばれる部分の窓が結実後開きそこから種がこぼれる仕組みになっているが、類似種のヒナキキョウソウの穴の位置より低い。それはなぜか？その理由は、種子の下には連座のごとく軸の周りを囲む形の葉がついており、それが受け皿となり風に飛ばされる2段構えの仕組み。



【ユリノキの托葉】 【キキョウソウの風散布】

田代先生にとっては、目につくものすべてが教材。その話題の豊富さに参加者全員が感心しきり、それぞれが熱心にメモをとられておりました。
次回はみなさんも是非仲間入りしてください。